

不登校を予防するためのQ-Uの活用と夏休み中の対応

～ 1学期の不安や不満は1学期中に対応することが重要！ ～

「不登校を予防するための」見立て

学校を休み始める前に次の4つの視点でチェックをしてください。

- ①満足群にいる児童生徒の中の不登校予備群
- ②友だち関係・人間関係に不安をもっている不登校予備群
- ③学習困難による不登校予備群
- ④家庭環境要因による不登校予備群

このうち①と②はQ-Uの結果から見つけることができます。

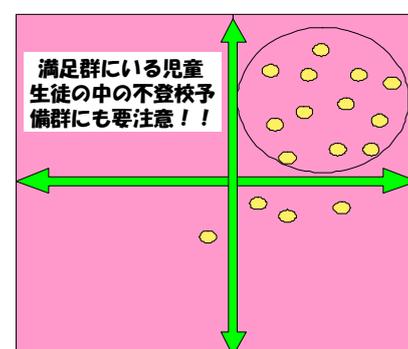
③④は日常観察や個人面接などでわかります。



◆ ①～②の子どもの見つけ方 ◆

(1)満足群にいる児童生徒の中の不登校予備群

- ① 希薄な人間関係の中で生活している児童生徒
 - ▶▶ 小学校 ……学習意欲だけが高い
 - ▶▶ 中学校 ……学習意欲・進路意識だけが高い
- ② 学校の教育目標から外れて満足している児童生徒
 - ▶▶ 小学校 ……学習意欲がとても低く友人関係のみが高い
 - ▶▶ 中学校 ……学習意欲・進路意識だけがとても低く、友人との関係のみ高い
- ③ 満足群にいてなおかつ、19もしくは20の得点が「4」または「5」の生徒



(2)友だち関係・人間関係に不安をもっている不登校予備群

- ▶▶ 小学校 ……承認得点（1～6）に1を，被侵害得点（7～12）に4をつけている児童
- ▶▶ 中学校 ……承認得点（1～10）に1を，被侵害得点（11～20）に5または4をつけている生徒

◆ 具体的な対応の仕方 ◆

(1)まず，教師がつながる

何らかの不登校のサインが見つかった子どもに対しては，日常的に授業中や休み時間などでの教師からの声かけを多くする

(2)ソーシャルスキルトレーニングにより関係づくりの方法を体験的に学ぶ

友だちとかかわることに自信がない子どもにはソーシャルスキルトレーニングを取り入れ，体験的に関係づくりの方法を学ばせる機会をつくる

(3)夏休みの課題の与え方や内容の工夫

学習に困難を感じている子どもに対しては，夏休みの課題について内容や量を配慮し，夏休み中に終わらせることができるような手立てを行う

(4)個別相談を行う ⇒ 学期末の懇談にQ-Uの結果を有効に使う

チェックの入った項目からその子どもの感じている不安や不満を読み取り，話をていねいに聴き，「気持ちが変わったこと」を伝えると共に，解決方法を一緒に考える

夏休み中の対応 ～夏休み明けに「安心して登校できる」状況を～

9月、長い夏休みが終わり、子どもたちは気持ちを切りかえて登校しなければなりません。ここで不登校になる子どもの中には「宿題ができていない」ことが引き金になっている場合があります。また、1学期にはいろいろ不満を持ちながらも何とか登校していたが、夏休み中に気持ちが回復できないまま不安や不満が心の中でふくらみ、結局登校できないこともあります。

👉ポイント

- ①みんなと同じように「宿題が提出できる」状況をつくる
- ②気になる子どもには家庭訪問などで個別に話す機会をつくる



～具体的な方法として～

- 例) ① 夏休みの宿題や課題を学校で一緒にできる場所と時間を設定する
- ・ 補習の中に
 - ・ 絵画や工作教室など
 - ・ 日直当番の時に
- ② 子どものニーズに合った内容を工夫する
- ・ 宿題の量や内容を子どもの実態に合ったものにする
- ③ 休みの後半に友達や先生とふれあう機会を設定し、登校への心の準備をさせる
- ・ ゲーム大会や料理教室などレクリエーション的な催しを設定する。

これまで高知市の学校で実際に夏休み中に行われた取り組み

はがき大作戦

暑中見舞いや残暑見舞いなどはがきをだして、気にかけているというメッセージを伝える

〇〇教室作戦

学校で絵画や工作、作文・読書感想文、自由研究などの教室を開く

宿題応援作戦

補習の中に、宿題をすることのできる時間を設定する

〇〇大会作戦

夏休みの後半にドッチボール大会やオセロや将棋などのゲーム大会、たこやきづくりなどを行う

おまつり作戦

地域や学校で行われる夏祭りや行事などに一緒に参加して楽しむ

お出かけ作戦

近くの公園や川などで一緒に遊んだり、魚釣りやスポーツなどを楽しむ